

# 総合案内版

## 川口市内観光ルートマップ

全長70km!!  
あなただけの  
推スポットが見つかる!



**あいうえおのまち! 川口!**

あ…荒川・芝川。川の恵みに育まれたまち  
 い…錆物・機械・木型など。ものづくりのまち  
 う…緑木・花卉。江戸時代から続くみどりのまち  
 え…映像産業。SKIPシティで新たな人材を育むまち  
 お…御成道。徳川将軍日光東照宮参詣の宿場町オートレース。時速150キロを超える迫力のバトル

「あいうえおのまち川口」。わがまちを知って、知らせて、みんなで楽しくにぎやかにまちにしていきたいです。

# 川口市内観光ルートマップ全コースガイド

川口と聞いてどんなイメージを思い浮かべますか? 錆物、植木、タワーマンション、東京のすぐ隣、荒川……どれも正解。そして、このほかにも正解は無数にあるのです。歩いて、触れて、知らなかった川口を見つけてほしい! そのような願いをこめて、市内の見どころを集めた観光ルートマップを11コース作成しました。縄文時代の貝塚からおもしろスポットまで、歴史、花めぐり、個性的な商店街、遊べる公園などなど、エリアごとの特色をコース上にギュッと凝縮しています。休日のひととき、ルートマップ片手に、川口の街歩きを楽しんでみませんか。

- ### 1 川口駅東口コース

全長 4.2km 所要 52分

市内の商業中心地・川口駅東口周辺を散策。平成3年に完成した駅前ペデストリアンデッキは街の景色を近代的に変えました。しかし、駅から近い場所には、古くからの寺社が残ります。徳川将軍が通った日光御成道沿いには古い商家の店構も。最新設備と歴史遺産が共存しています。



キコボラ
- ### 2 川口駅西口コース

全長 6.3km 所要 80分

荒川を歩き、河川敷からの眺望を堪能します。その昔、江戸との舟運や錆物づくりに必要な砂など、荒川は川口発展の土台となりました。コース上は新しい街が2つあります。駅西口にあった園の研究所は文化施設に、古くからのビール工場は、商業施設・美術施設等を持つ複合空間となりました。



荒川運動公園
- ### 3 元郷・領家コース

全長 5.3km 所要 65分

埼玉高速鉄道の開業、超高層マンションの竣工などにより、景色が様変わりした元郷・領家地区。とはいえずい川が流れる一帯は工場が多く、ものづくりの街・川口の原風景をとどめています。足を延ばせば工場造りの洋館と和館の「旧田中家住宅」(国登録重要文化財)が見られます。



エルザタワーと錆物工場
- ### 4 西川口・青木町平和公園コース

全長 6.7km 所要 82分

便利な駅ビルを併設し、イメージアップが進む西川口。東口の駅前通りでは地域ぐるみで緑化活動が行われており、街路樹や花壇が通ります。市民スポーツの拠点である青木町平和公園。充実した設備もさることながら国立競技場の聖火台レプリカなど、散策するだけでも楽しめます。



青木町平和公園
- ### 5 芝コース

全長 5.5km 所要 69分

マンモス団地や戸建てが並ぶ芝地区は、昭和10年代まで水田地帯でした。その後都市化が進みましたが、道端には庚申講の石碑やお地蔵さんといった昔の信仰を伝える建造物が残ります。見どころは徳川家の庇廬を受けた古刹・長徳寺。広い境内は涼とした空気に包まれています。



長徳寺
- ### 6 グリーンセンターコース

全長 6.0km 所要 76分

グリーンセンターは、東武ドーム3箇分の広さにさまざまな草花が植えられ、遊具も充実。この一帯はもともと花の生産が盛んで、今も周辺には花農家や園芸店がみられます。近くには関東郡代伊奈氏の菩提寺・源長寺などがあり、江戸時代の旧新井宿村の雰囲気を残しています。



グリーンセンター
- ### 7 差間・木曾呂コース

全長 6.1km 所要 77分

水田地帯の面影が残る住宅地には、江戸治水の名残が見受けられます。広大なため池になっていた見沼を干拓したのが見沼田んぼ。水を引き上げたのが見沼代用水。こう門式運河の見沼通船堀。先人の知恵と技術にうならされます。木曾呂地区は知る人ぞ知る、ぼうふうと木の芽の産地です。



見沼通船堀
- ### 8 戸塚・綾瀬川コース

全長 6.8km 所要 84分

かつての水田や植木畑は、すっかり住宅地に姿貌。新興住宅地の東川口にはスーパーや大型店舗が並び、新しい公園や学校、スポーツセンターなどができました。東を流れる伝右川の桜並木は地元の花見スポット。綾瀬川はカヌーやサカナなどに遭遇できるバードウォッチングの穴場です。



戸塚中台公園
- ### 9 赤山・安行コース

全長 7.1km 所要 86分

安行は400年近い歴史を持つ植木の産地。現在も植木産業の中心地であり続けます。関東郡代・伊奈氏の拠点であった赤山には今も堀や土塁があり、栄華がしのべれます。自然林の残る興隆院や「お灸の寺」金剛寺、眼病治療で信仰を集める慈林薬師宝蔵院など、歴史の見どころが満載です。



赤山城跡
- ### 10 安行・峯コース

全長 4.2km 所要 51分

見どころを巡る花に一年中事欠かない安行。希少種のイチリンソウは、地域の人々に守られながら徐々に自生地を広げていきました。コース上にもオープンガーデンが設けられています。広場のケヤキには伝統行事「安行原の蛇道り」の蛇が。自然と伝統が、安行では大切に守られています。



安行原の蛇道り
- ### 11 鳩ヶ谷コース

日光御成道ルート 全長 6.1km 所要 77分  
 芝川ルート 全長 5.3km 所要 66分

日光御成道の宿場町として栄えた鳩ヶ谷は、懐かしい雰囲気を感じられるエリアです。見どころがいっぱいの鳩ヶ谷コースでは、江戸の風情が残る寺社が多い日光御成道ルートと、南北に流れる川辺を歩む芝川ルートの2つをピックアップ。

日光御成道ルートは、鳩ヶ谷の台地を下りながら、昔の絵図にも描かれた地蔵院、鳩ヶ谷氷川神社に足を運びます。タイミングがあれば、からくり時計の大行列に出会えます。

芝川ルートでは、堤防上のサイクリングロードを進みます。水門のある上青木橋の小さな広場からは、川口オートレース沿いに流れる旧芝川の遊歩道・芝川緑道へ。水面に手が伸びるような川岸は、現在では貴重な場所といえます。



鳩ヶ谷氷川神社



芝川緑道

## 川口市プロフィール

川口市は埼玉県の南端に位置する人口が県内第2位の都市です。市の南部は、荒川を隔てて東京都に接しており、江戸時代より錆物を地場産業とする工業都市として発展してきました。近年では、住みやすい街ランキングで上位に評価され、交通利便性の良さなどから東京のベッドタウンとして住宅都市化が進んでいます。

市の北部においては、再整備が進むグリーンセンターを中心に緑豊かな自然地域が色濃く残っています。また、同地区には、高速道路の休憩施設と本市が運営する「イナイパーク川口」(公園)が連結したハイウェイオアシスが誕生するなど、周辺環境を活かしたまちづくりを推進しています。

平成23年には旧鳩ヶ谷市と合併し、古くは「日光御成道」で結ばれた川口宿・鳩ヶ谷宿は、人口60万都市へと発展し、平成30年には中核市へ移行しました。今後、「更なる選ばれるまち川口」の実現に向け、様々な政策を展開していきます。



市の花  
鉄砲百合



市の木  
サザンカ



市指定天然記念物  
安行原イチリンソウ自生地

川口市のマスコット  
**きゅぽらん**

みんな遊びにきてきゅぽらん!

“錆物のまち”川口を象徴する溶炉キョウボウがモチーフ。見れば川口が好きになる胸には「川口の星に!」との願いが。川口の魅力を全国に発信していきます。

川口市情報ポータルサイト  
検索する溶炉キョウボウがモチーフ。見れば川口が好きになる胸には「川口の星に!」との願いが。川口の魅力を全国に発信していきます。

[トリコ川口](#) [検索](#)

## 川口市周辺アクセス図

主要駅から川口駅までの所要時間

- 東京駅から約23分
- 池袋駅から約17分
- 大宮駅から約20分

主要駅から鳩ヶ谷駅までの所要時間

- 東京駅から約44分
- 池袋駅から約43分
- 大宮駅から約46分

川口市経済部産業振興課  
 〒332-8601 川口青木2-1-1  
 電話: 048-259-9018 FAX: 048-258-1161 [2023.12]

# 伝統産業の街 川口 地域を支えた歴史ある産業

## 錆物

錆物は川口を代表する産業のひとつで、歴史は古く、江戸時代に確立された地場産業です。錆物工場は市の南部地域を中心に発展、数々の錆物製品を作り出してきました。大消費地東京に隣接する好立地条件や、伝統技術、頼まれたらやり抜く職人気質、旺盛な研究心と負けじ魂などによって、かつては全国一の「ものづくりの街・川口」を博しました。錆物工場は最盛期に比べ少なくなりましたが、今も川口にはものづくりの伝統が息づいています。

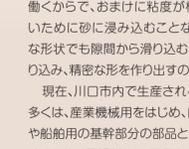
### 川口の錆物って?

埼玉県の玄関、JR川口駅の銘板が市を語る地場産業の錆物製。市内の善光寺裏手で組み立てを行った、日本初の蒸気機関車・善光号がモデルです。かつての川口市は、溶接「キコボラ」の煙突が林立した真正正銘物の街。映画に取り上げられ、街のシンボルとして長くイメージされましたが、現在キコボラを見ることができない工場は数軒。代わって高層マンションが林立します。

錆物は、緻密な肌をたたき、独特な質感ですが、その感覚を覚えると、オブラエや街灯、マンホール、橋の欄干、歌でヒットしたタイ焼き用鉄板など身近なところで存在を確認できます。錆物とは、鉄を含む鉱石を1500度を超す高温で溶かし、砂や金属で作った型に流し、冷えて固まった製品の型。真っ赤な鉄の塊「湯」は、複雑な形状の型でも吸い込まれるように自在に流れ込み、形を作り出していきます。その技術は、人類が火の利用を知った原始時代に遡り、土器作りから溶けた金属がくぼみなどに入って固まることをヒントに、生み出されたといえます。

錆物の製造に不可欠なのが「鋳型」です。でき上がる製品と同じ模型を木や金属、合成樹脂で作り、枠に入れて周りを砂で固め、最後に模型を抜き、できた凹みに溶かした金属を流し込むのです。とはいえず、1500度を超す溶けた金属はどうして鋳型を壊さずに成形することができるのでしょうか。それは金属の表面張力が働くからで、おまけに粘度が極めて低いため、砂に浸み込むことなく、細かな形状でも隙間から滑り込むように入り込み、精密な形を作り出します。

現在、川口市内で生産される錆物の多くは、産業機械用をはじめ、自動車用や船舶用の基幹部分の部品として活躍するほか、景観材や日用品など身近な場所にも用いられ、利用されています。



良い製品は、職人の経験と技術が生む

## 川口の錆物の歴史

川口市の錆物産業は、鍛冶師や錆物師の名前が書かれた長徳寺和尚の日記「寒松日書」や、錆作りを描いた「江戸名所図会」などが、遅くとも江戸時代には始まったと推測されます。当時、荒川や芝川付近から錆物に適した川砂や粘土が採取でき、また舟運の便が良く大消費地の江戸に隣接していたことも要因と考えられています。

当初は寺社の奉納物为主でしたが、やがて薄物といわれる農具や、錆や鉄瓶などの日用品が製作されました。19世紀には、江戸の防火用として「天水鉢」の製作依頼にも応じています。明治以降、技術・生産高とも川口の錆物は飛躍的に成長し、昭和30年代には、全国一の錆物生産高を誇りました。中でも「石炭ストーブ」は全国シェアの8割を占め、川口の錆物を世に広めました。また、川口市の錆物業界が「丸」なことで知られた。旧国立競技場の聖火台も代表的なひとつです。

錆物は、職人の熟練した技と優れた機、科学的な技術が加わってできる「ハテケ」な造り物です。他の加工方法とは異なり、接合工程を省いた一体成形ができるので、費用の節減がもっともはっきり製品の小型化も可能です。悪意もなかなかの美しさを保ちます。

錆物製品の用途でもっとも多いのが、工業用製品です。さびにくく、振動や騒音を吸収するなどの利点があり、自動車のエンジン部品や原子炉のタービン、パワーステアリングなどのほか、マンホールや門扉、街路灯、美術品など生活のなかにも息づいています。

近年、軽くて熱伝導が良く、無毒性、非磁性、リサイクルできるなどの利点を持った錆物製品も次々と生まれ、スポーツ器具や調理用品など多様な分野に進出しています。新たな技術や製品の開発、技の伝承など、錆物にかかわる川口の職人魂は今なお健在です。



青木町平和公園にも聖火台の同型品が展示してあります

## 植木

植木は、台地の風土に守られながら市内北東部の安行地域を中心に栄えてきました。その台地は標高20メートルの起伏に富んだ洪積台地。関東ローム層の赤土を活用し、挿木や接ぎ木、室での貯蔵などの技術が生まれました。江戸時代になると、水運を利用してその技術は江戸の街に運ばれ、安行の名が広がり、現在も、マツやマキなどの枝ぶり美しくする仕立て物や、移植しても根を枯らさない根巻きなど、長年の間に培われた伝統技術は安行流といわれ、国内外で高く評価されています。

### なぜ川口の植木は有名に?

川口市の植木生産地は、安行地域を中心に、神根、戸原、新郷などの市内北東部地域。これらは市内で、もっとも高い台地上にあり、表層下は火山灰の堆積地です。年月を経て侵食され、傾斜地や低地など起伏に富む地形をつくりだし、それぞれの地形に似合う草木が多種類ありました。その台地は水はけが良く、日当たりの良い斜面では室を使った切花用の促成栽培技術も生まれました。比較的温暖な気候は寒地性植物や温帯植物、亜熱帯植物など幅広い植物の栽培を可能とし、大消費地東京に隣接する地理的条件にも恵まれ植木産業は大いに発展。やがて全国各地へ浸透していきます。

川口の植木の始まりは江戸時代と推測され、赤山に陣屋を構えた関東郡代・伊奈氏が開墾するすまの復興、植木や花の栽培を奨励したといわれます。また、大火で消失した江戸の豊洲に安行の植木を送り込むきっかけをつくった吉田権之丞や、サカキなどの枝物を江戸に売り出したという若橋太郎兵衛なども今日の植木産業の基礎をつくったともいわれています。



植木のせり会場



美しく手入れされた安行地域の植木畑

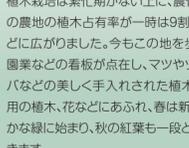
## いきづく技術

安行の植木は国内外で高く評価されており、10年毎に開催するオランダの国際園芸博覧会に、1982年から毎回出展し、安行の植木技術を駆使した日本庭園等は、連続してタイトルを受賞。これを機に、「ANGYO」ブランドは海外でも高く評価されています。

長年伝承されてきた安行の植木技術は、そのほとんどが安行で開発され、「植木の安行」のブランドで全国に流通しています。その一つ「根巻き」は、樹木を移植するときの技術。掘り取った根から土をぎゅぎゅと麻袋で根を包み、荒縄で結びます。かつては稲わらが使われ、土に埋めるとそのまま堆肥になったという優れたものですが、縄の造形美しさも評判です。

「曲げもの」は、樹木を曲げて粋な形を作る技術で、完成までには30年もの年月がかかるという、高い技術と必要とします。いけ花に使う「枝物」は輸送中のつぼみの落下を防ぐ「枝折」「しおり」という技術などもあり、いずれも川口の風土にあった形ではぐくまれ、現代に受け継がれています。

川口では、江戸の頃より市内北東部を中心に植木や花き栽培が行われており、植木栽培は繁忙期がない上に、農作業は年中欠くことがないことから、安行地域の農地の植木占有率が一時は9割に及ぶほどに広がりました。今もこの地を歩くとき、遊園地などの看板が点在し、マツやツバキ、ヒバなどの美しく手入れされた植木や、観賞用の植木、花などにあふれ、春は新芽の柔らかな緑に始まり、秋の紅葉も一段と美しく輝きます。



もみじ専門の農家もあります

## 御成道

御成道(日光御成道)は、江戸時代に将軍の日光社参のために整備された街道で、現在の川口市内では国道122号線と県道105号線のルートにあり、現在は川口と鳩ヶ谷は、日光御成道の宿場に使われ、人びとが行き来する街道の宿場町・商業の町として繁栄してきました。また2つの町は、江戸に向けての植木や釣竿、織物といった伝統産業の供給でも力を貸しあってきました。そして、鳩ヶ谷地域が川口市に加わったことで、川口と鳩ヶ谷がこれまで以上に一体となるような街づくりが進められています。

## 日光御成道が繋ぐ2つの宿

日光御成道は、本郷道から岩瀬、川口、鳩ヶ谷、大門、岩瀬の宿場を経た幸手道分までの12里30町(約48km)にわたる日光街道の脇道です。この街道は、徳川将軍家が、徳川家康の命日である旧暦の4月17日に日光で催される大祭と先祖の霊園に参詣する日光社参のために利用されました。日光社参は元禄3年(1617年)から天保14年(1843年)までの間、のべ17回実施されたこととあります。

江戸時代、川口は岩瀬と同じく「荒川」の渡しを担う宿場町として賑わい、宿場間の荷物配達や郵便などの駅通業務を行う問屋も設けられました。そして日光社参にまつる話としては、8代将軍・吉宗と10代将軍・家治が、日光社参の折りに川口の鐘辻(しゃくじょう)で昼食をとるために小休した、との記録があります。このほか、江戸時代後期の名所旧跡ガイド「遊歴雑記」には、宿場西側の裏町筋に「釜屋」と呼ばれる数十軒の錆物屋があったと書かれており、川口が産業の町として栄えていたことが窺えます。

一方、鳩ヶ谷は宿場の本陣がある中町を中心に、穀物をはじめ肥料や藍染めの材料として使われる藁(わら)は、肉、雑貨・乾物高といった店が連なっており、商業の町として知られていました。江戸時代の中頃に始まったといわれる「三八市(さんぱちいち)」には、周辺からも多くの人が集まったと伝えられています。その後鳩ヶ谷は、周辺地域の物資集散地として発展し、商業地としての名を馳せました。

川口と鳩ヶ谷は日光御成道の宿場として共に栄え、また安行植木や和傘などの伝統産業の配送ルートとしても重要な役割を担っていたため、昔から商業・文化の交流が盛んでした。平成23年10月(2011年)に川口市としてひとつになった両地域は、これまで以上に深い関係を楽しんでいくこととなります。



川口宿本陣の門



明治35年(1902年)頃の鳩ヶ谷中宿

## 商店街

川口市は、錆物業を中心とした産業都市として発展を遂げましたが、工場の転地や閉鎖などが相次ぎ、跡地には大型店が進出。スーパーなどに生まれ変わり、週末はどきどきとわがわがしています。市内の商店街は約50、それぞれ個性を發揮した商店街づくりを進めており、県下第2位の売り上げを記録しています。その努力が街を結び、埼玉県で実施する黒おび商店街に、認定されている商店街も数多くあります。黒おびは、商店街主催の事業を継続する「元気な商店街」が条件です。

元気な商店街は市内にいくつもあり、西川口駅周辺では地域と一緒に通りを花で飾っています。川口駅東口界隈では、七夕まつりを伝統行事にするほか、安行地区と協同で行事を行うなどの取り組みが行われています。また鳩ヶ谷地域では、フリーマーケットなど住民参加型のイベントが開催されています。

このほかにも、冬季にイルミネーションを飾って盛り上がる商店街も増えており、来客同士のコミュニケーションが生まれる楽しいイベントとして定着しています。

それぞれ商店街は、大型店舗にない手ぶら感を生かし、消費者をワクワクさせる魅力ある商店街をめざしています。



老舗が多い商店街の七夕まつりは、7月の伝統行事です



イベントで商店街と地域住民の一体感が高まります

## 歳時記

- 1月

初詣 (市内の寺院や神社)  
 武州川口七福神めぐり  
 新春交礼会…市内の町会・自治会各種団体がそろう町会を祝う(リリア)



武州川口七福神めぐり
  - 2月

節分…豆まき (グリーンセンターをはじめ、市内の寺院や神社)  
 初午…錆物工場などで稲荷様をまつる(市内各工場)  
 花の文化展 (リリア、川口緑化センター)



音の響きを聴く初午太鼓
  - 3月

初午太鼓コンクール (リリア)  
 春の植木大祭り市  
 桜まつり(文化放送)口送ほろが市内各所



音の響きを聴く初午太鼓
  - 4月

春の安行花植木まつり・一輪草まつり (川口緑化センター、ふるさと会森ほか)  
 江戸袋の獅子舞(江戸袋氷川神社)



市指定無形民俗文化財の蛇道り
  - 5月

スプリングフェア (グリーンセンター)  
 みどりの地球学in安行 (安行スポーツセンター)  
 芝川鯉のぼり祭り (さくら橋周辺)  
 安行原の蛇道り(安行原)  
 春の園芸フェスタ (キョボラ、ら広場)



市指定無形民俗文化財の蛇道り
  - 6月

安行藤八の獅子舞 (安行藤八)



7月に開催する七夕まつり
  - 7月

七夕まつり (ふじの市商店街)  
 夏祭り (鳩ヶ谷氷川神社)  
 国際Dシネマ映画祭 (SKIPシティ)



7月に開催する七夕まつり
  - 8月

たたら祭り
  - 9月

領家の囃子と神楽 (領家稲荷神社、三十番神社)  
 ツーデーマツパチ (戸塚中台公園)



国際Dシネマ映画祭
  - 10月

グリーンフェスティバル (グリーンセンター)  
 秋の安行花植木まつり (川口緑化センターほか)  
 江戸袋の獅子舞 (江戸袋氷川神社)  
 川口市市産品フェア



川口市市産品フェア
  - 11月

緑と大地の豊年まつり (植物取引センター・川口緑化センター)  
 荒川ふれあいまつり (浮間ゴルフ場)



川口市市産品フェア
  - 12月

川口マラソン大会 (青木町公園総合運動場と周辺)  
 おかめ市 (川口神社)  
 おかめ市 (飯塚氷川神社)  
 おかめ市 (鳩ヶ谷氷川神社)  
 除夜の鐘 (市内の寺院や神社)



熊手などの縁起物がならぶおかめ市
- ※各種行事は都合により予定が変更となる場合があります。